

まちで見られる虫たち

市街地の生きもの 広瀬重夫

チョウのなかま - ヒョウモンチョウ



山地のをふくめ、神戸で知られている84種のチョウのうち、22種がヒョウモンチョウのなかま、タテハチョウ科のグループです。大型で見ごたえのあるものが多いです。

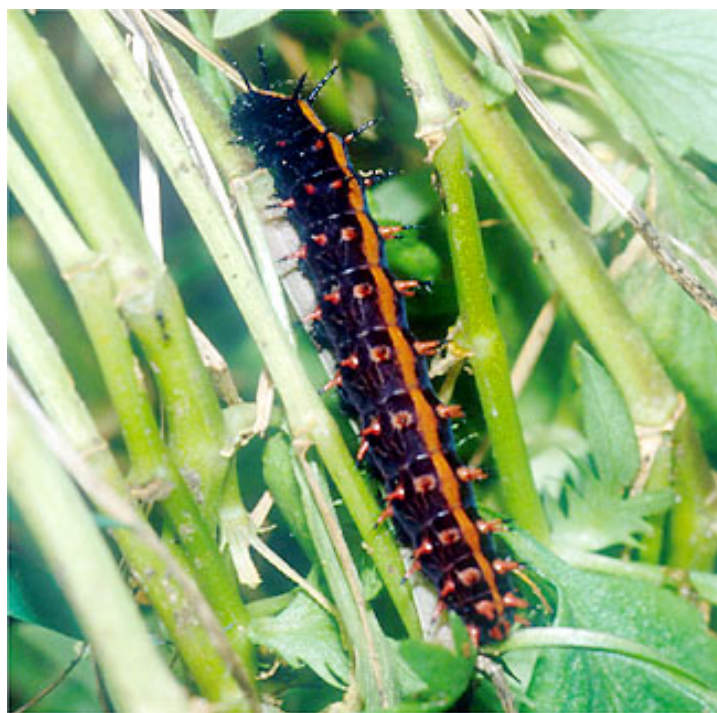


写真136、ツマグロヒョウモン(幼虫)
8月、狩口台3



写真137、ツマグロヒョウモン (蛹)
8月、狩口台3

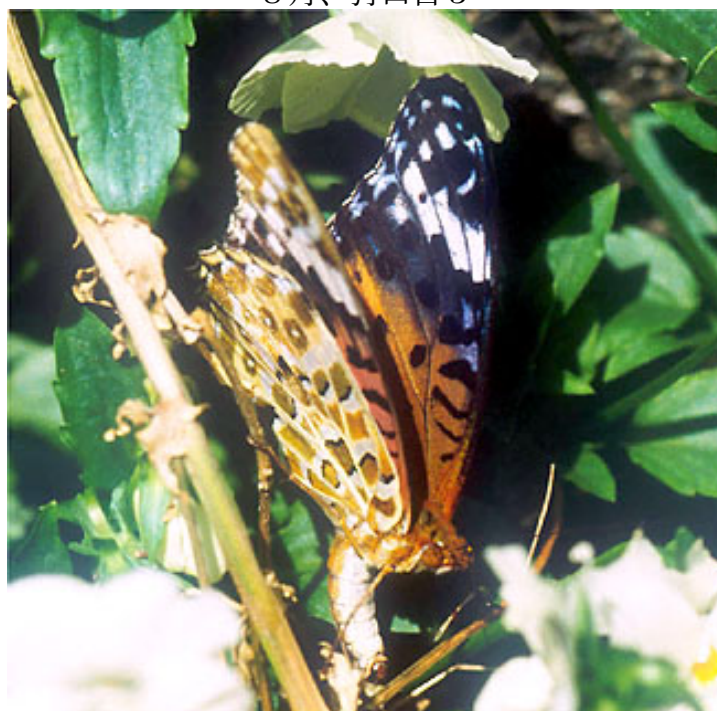


写真138、ツマグロヒョウモン (雌)
8月、狩口台3



写真139、ツマグロヒョウモン (雄)
8月、狩口台3

■ツマグロヒョウモン

公園、街路、庭先などによく植えられるパンジー（スミレ科）を食べて育った最終令の幼虫（写真136）。太い突起や長いとげをはやし、恐ろしげな格好ですが、噛みついたりはいしませんからご心配なく！？

さきの幼虫が、そのあくる日、すぐそばの地面ちかい土台に止まって蛹になりました（写真137）。やはり、鋭い突起の名残をとどめています。

パンジーに卵を産みつけているところです（写真138）。前ばねの先の黒紫と白の模様の組み合わせが雌のトレードマーク。

雌の前ばねの先の方と比べると、雄との違いがよく分かります（写真139）。

ところで、このツマグロヒョウモンというのは、九州、四国あたりまで分布して定住しているようですが、近年、都市部の気温が上昇みで、神戸あたりへも北上してきたのでしょうか。ただし、越冬して定着しているかどうかは分からないと言われているので、みなさんの観察を期待します。



写真140、ホシミスジ（表）
7月、自宅



写真141、ホシミスジ（裏）
9月、自宅

■ホシミスジ

庭によくやってくるチョウのひとつ、はねを広げると名のとおおり、白の模様が3本の線になります（写真140）。

はねの裏側のつけねの模様をよく見ましょう（写真141）。白い部分に黒い紋が点々とついているので、ほかのミスジチョウのなかまと区別できます。

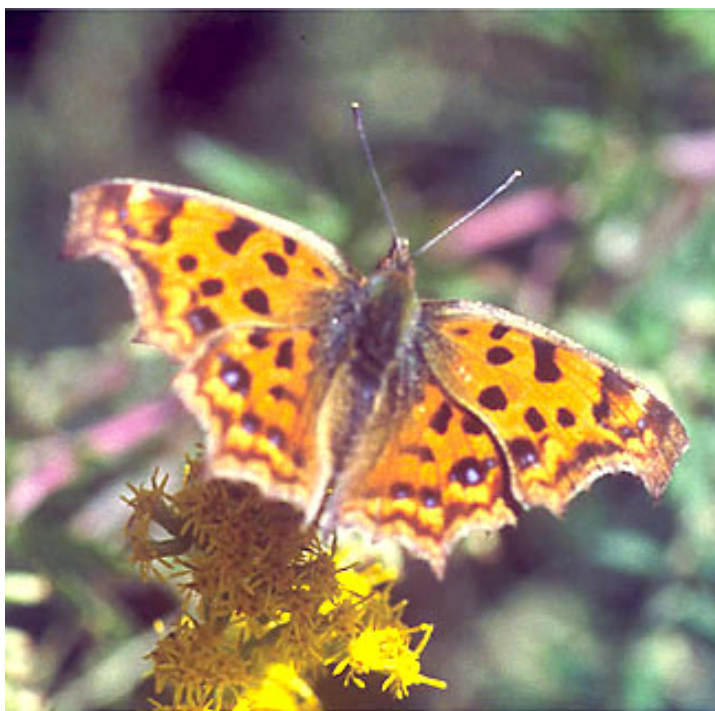


写真142、キタテハ（表）
10月、住吉川



写真143、キタテハ（裏）
9月、神仙寺通2

■キタテハ

セイタカアワダチソウの花にきたキタテハ（写真142）。はねのふちが粗いノコギリ歯状になっています。幼虫の食草は、中州に群生する、つるや葉がざらついたカナムグラです。

もと民家の空き地に残っていたシオン（キク科）の花にきたキタテハ（写真143）。はねの裏に白いL字型の紋があります。ほかに似たものがありますが、神戸にはいません。



写真144、ルリタテハ（幼虫）
9月、自宅



写真145、ルリタテハ（成虫）
9月、自宅

■ルリタテハ

庭のホトトギス（ユリ科）の葉を食べつくして、蛹になる直前の終令幼虫です（写真144）。とげ状の突起で武装したもののものしい姿です。

ケースに入れていたら、あくる日天井のふたにぶら下がり蛹化。蛹になっても突起のふくらみが残っていました。

さきの幼虫が蛹になってから、13日後に飼育ケースの中で羽化していました（写真145）。蛹の期間は2週間ほどです。

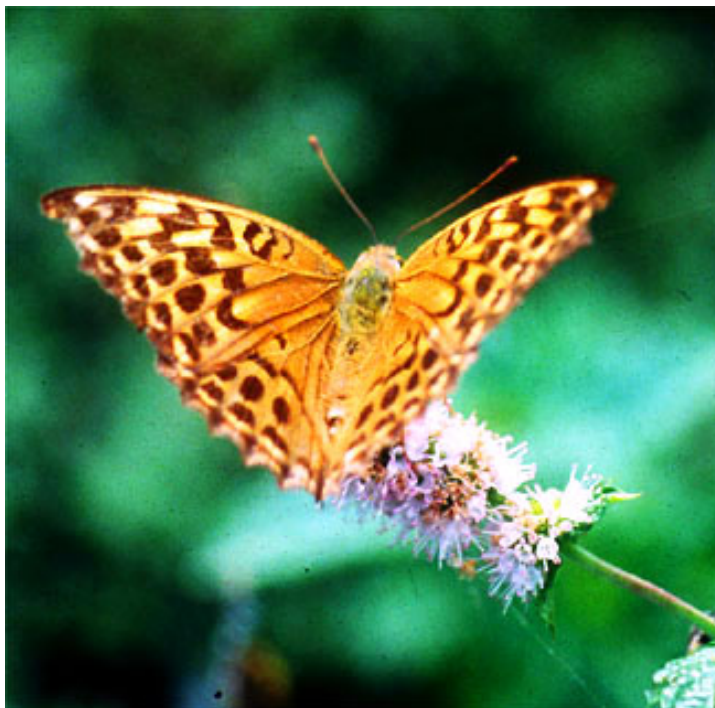


写真146、ミドリヒョウモン（雌）
10月、狩口台3



写真147、ヒオドシチョウ（幼虫）
5月、王子公園

■ミドリヒョウモン（雌）

香りに誘われたのでしょうか、マルバハッカの花に来ています（写真146）。ほかにツマグロヒョウウン、ウラギンシジミ、モンシロチョウなどもやって来ます。ミドリヒョウモンの雄の前ばねの4本の脈は太くなっています。

■ヒオドシチョウ（幼虫）

胴体の各節から肉質突起を出した終令幼虫が、食草としていた公園のエノキから緑色の糞を出しながら、幹を下っていました（写真147）。チョウになると、後ろばねの裏に黒いやや大きな紋が一ヶ所ついています。



写真148、ヒメアカタテハ
11月、落合中央公園

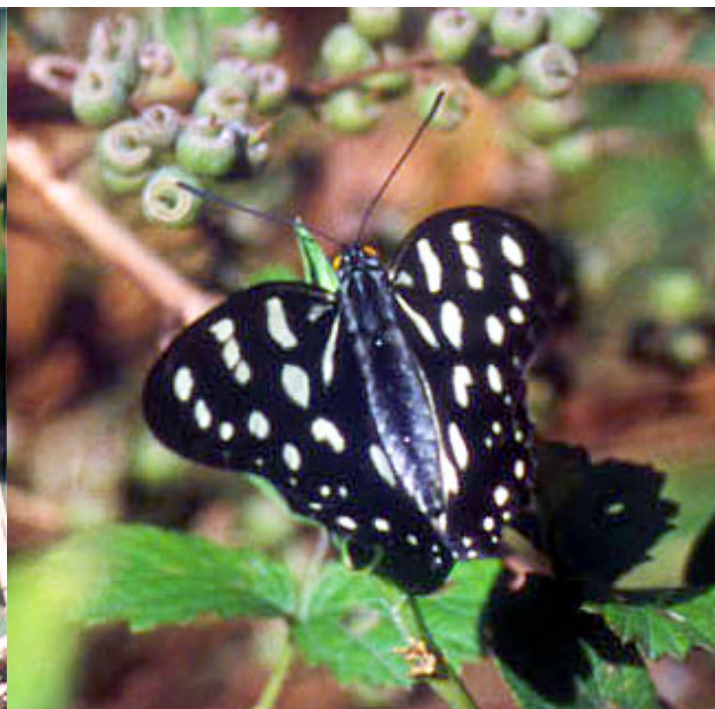


写真149、ゴマダラチョウ
9月、住吉台1

■ヒメアカタテハ

前ばねの先の方の白い紋のようすで、アカタテハと区別します（写真148）。幼虫は、ヨモギなどキク科の食草で育ちます。

■ゴマダラチョウ

黒っぽいはねに、白い大粒のゴマをまぶしたよう（写真149）。幼虫の食草はオオムラサキと同じエノキです。ここはウツギが生えているくらいですから、住宅地としては山がかったところ。

■イシガケチョウ

市街地でも、この珍しい蝶が飛んでいるのを見かけますが、なかなか写真になりません。そこで止むを得ず、郊外で撮ったのを使いました（写真150）。

花はご存知、セイタカアワダチソウ。

なおこの写真は、'94、11／8の神戸新聞に載りました。

幼虫は市街地にも生えているクワ科の低木イヌビワです。南方系のこのチョウが神戸で定着しているかどうかは分かりませんので、気をつけておきましょう。



写真150、イシガケチョウ
11月、押部谷町

[このページのPDFファイル](#)



[トップページへもどる](#)